

候補者の第一声

右から届け出順。年齢は投票日現在。四角囲み政界は推薦・支持。経歴の園以下は前・元職。▽以下は出身校と住所。経歴などは原則として本人の回答に基づいています

茨木市長選 新顔4氏

崇街頭で主張訴え

茨木市長選と市議補選が1日、告発された。市長選にはいずれも新顔で、大阪維新の会にはらき支部副支部長で同支部とみなす党第9区支部から推薦を受ける元市議長の木本保平氏(67)、新社会党府本部委員長で社民党から推薦を受ける元市議の山下慶喜氏(59)、地方議員のネットワーク「虹と緑」の500人リストの元全国共同代表で元市議の桂穂子氏(43)、医師の吉野宏一氏(44)の計4人が立候補を届け出た。市議補選にも新顔4人が立候補を届け出た。投票日は8日。

木本氏は、茨木神社で支持者ら約300人(陣営発表)を前に「労働組合と市役所を交えるチャンス。市民のための政治を必ずや

茨木市議補選候補者

(被選挙権数1-候補者数4)
大嶺さやか 40 茨地区委員 共新
長谷川 若 49 セミナー講師 無新
中森 朝雄 70 薬剤師 無新
辻 由起子 88 子育て支援講師 目新
届け出順。年齢は投票日現在。候補者の経歴などは原則として本人の回答に基づいています

ると声を張り上げた。大阪維新の会の松本利明府議は「維新の大きな流れとともに茨木市を変えなければ」と述べた。山下氏は、阪急茨木市駅前

前で支持者ら約200人(陣営発表)を前に、「市民の皆さんが様々な思いを持ち、要望も異なる。何よりもそれを前提に市政運営に携わりたい」と演説。社民党の服部長一衆院議員は、「私たちは大阪維新の会に負けてはならない」と訴えた。

桂氏は阪急茨木市駅前支持者ら約140人(陣営発表)を前に第一声。「市の都市計画マスタープランを表現し、市民が力を発揮出来る街にする」と話し、野村宣一・茨木市長は「市議会でも市民目線で鋭い質

問をしている候補者なら市の課題に着実に取り組んでいただける」と述べた。

吉野氏はJR茨木駅前前で支持者ら約50人(陣営発表)を前に決起大会を開いた。医師としての立場から、救急患者の受け入れ体制への危機感を強調。同駅前などの再開発事業に力を入れると訴え、食の安全を保障する施設構築を呼び

「茨木市をもっとよくなるように頑張る」と述べた。市議補選には自民1人、共産1人、無所属2人が届け出た。期日前投票は2、7日の午前8時半〜午後8時、市役所階下階の交差点コナ1で。3月31日現在の有権者数は21万9,553人。(茨木春樹、高野裕介、藤井明、石田亨)



木本 保平氏(67)

無新

まずは公務員改革

維新の改革が、いままで通りの市ぐるみ労働組合ぐるみの候補を押しか、はつきりとした対立軸ができています。私は市民のための政治をやる自信がある。まずは公務員改革だ。どこか忙しくてどこかひまかい仕事を精査し、精緻の職員を多くしつつ、全体としての職員数を少なくしたい。また、給料を10%減らす。そこで出来た財源で、市を元気にする。税収も増やしたい。そのポテンシャルは大阪府下では茨木だけにあると思う。

大阪維新の会副支部長・市薬道遺囑基金調剤薬物収支連働会社長・市議選▽関西大学部▽茨木市下橋2丁目

教育委員会にも積極的に関わり、正しい歴史認識を子どもたちに教えられるようにしたい。



山下 慶喜氏(59)

無新 団

汚染がれき認めぬ

東日本大震災、東京電力福島第一原発の事故を私は経験した。放射能に汚染されたがれきを茨木の中に持つことは認めたくない。市長選のために長いことを書き立てる候補者と私は違う。(原発事故から子どもの甲状腺がんを防ぐこと

新社会党府委員長副市議・福祉団体理事・府議秘書・酒造職員▽同岸社大津支部▽茨木市平田台

などこれまで市議として真剣に取り上げてきたことを公約にした。地帯に取り組むというのを皆さんも日々やっている。最直に一生懸命働いても報われない人が、市民の99%ではないか、と私は思う。そんな人として、今回の市長選を戦い抜いていきたい。



桂 穂子氏(43)

無新

市民の声 耳傾ける

大きな政党を組織のしがらみがない立場として5年間市議を務めた。どんな団体にも、どんな市長にも、意見が対立する方にも、足を運び、耳を傾けられるトップになりたい。市内から撤退した企業の跡地には、立命館大学の新しいキャンパスやJRの新駅な

園市議・地方議員全国組織共同代表・つくりこ支援NPO代表▽大阪体育大学部▽茨木市上藤町

どが出来ると。お金をはらまくのでなく企業トップに市の魅力を説得し続けた歴代市長の尽力によるものだ。経済成長が5%も10%も、いろいろな夢のような話はない。今こそ「市民力」が必要だ。地域、NPO、一人一人の自発的な市民の行爲をコーディネートする市役所に作りかえる。



吉野 宏一氏(44)

無新

救急患者は市内へ

茨木市の救急患者の多くが市外に搬送されている。まずは4年間で市内への搬入を70%に上げたい。阪急茨木市駅前とJR茨木駅前

医師会医療福祉委員長・整形外科クリニック代表・整肢学園医師▽倉沢大産科部▽茨木市大寺町

食の安全を確認できるような施設をつくる。給食センターを設けて放射能のチェックをし、地産地消を推進したい。

小中学校の完全給食を実施し、一人暮らしの高齢者にも使ってもらおう。大阪府の食の中心である中央卸売市場も再び活性化させたい。